

# 調査研究委員会レポート

## 調査専門委員会および協同研究委員会 委員の公募

委員会名 【技術委員会】		ITS センシング基盤調査専門委員会 【ITS 技術委員会】	委員会での調査・検討項目の概要， 委員長のメッセージ等
設置期間		平成 18 年 12 月～平成 20 年 11 月	本委員会での主な調査検討内容は以下の通りである。 ・ 道路交通基盤としてのセンサの技術調査 ・ 単体としてのセンサとネットワーク化されたセンサの技術調査 プローブカー等の移動体センシングにかかわる技術調査，ほか。
委員長名(所属)		全 炳東(千葉大学)	
委員会開催頻度		6 回/年	
問合せ・ 公募 受付 先	氏名 (所属)	全 炳東 (千葉大学)	
	電話	043-290-3545	
	FAX	043-290-3545	
	E-mail アドレス	zen.h@faculty.chiba-u.jp	
応募いただきたい方の 専門分野，経験など		ITS に関わる情報のセンシングの分野について，計画・設計・施工の経験を有し，現在もその任に当たっている方。	
応募締切		平成 19 年 11 月 30 日	

委員会名 【技術委員会】		次世代生産システムにおける ヒューマンファクター協同研究委員会 【産業システム情報化技術委員会】	委員会での調査・検討項目の概要， 委員長のメッセージ等
設置期間		平成 19 年 6 月～平成 21 年 5 月	本委員会では，人間中心型となる次世代生産システムの各プロセスにおけるヒューマンファクターの解析と整理，生産におけるヒューマンファクター組込技術，安全・安心とヒューマンファクター，さらに感性情報処理の応用によるヒューマンファクターとインタフェースに関連する技術について検討を行う。従来，機械的に測定された生産効率等について，それと異なった観点から評価する手法について検討し，新しい次世代トータル生産システム構築のための手法を開発したい。
委員長名(所属)		橋本 周司(早稲田大学)	
委員会開催頻度		4 回/年	
問合せ・ 公募 受付 先	氏名 (所属)	橋本 周司 (早稲田大学)	
	電話	03-5286-3233	
	FAX	03-3202-7523	
	E-mail アドレス	shuji@waseda.jp	
応募いただきたい方の 専門分野，経験など		人間中心型の次世代生産システムの各フェーズにおけるヒューマンファクター，及びその産業応用に関する研究・開発の経験をお持ちの方。もしくは広くヒューマンファクターに関する技術に関心をお持ちの方。	
応募締切		平成 19 年 11 月 30 日	
協同研究委員会の場合の委員の負担			交通費等実費負担

委員会名 【技術委員会】	移動体エネルギーストレージ技術 調査専門委員会 【自動車技術委員会】		委員会での調査・検討項目の概要， 委員長のメッセージ等
設置期間	平成 19 年 4 月～平成 21 年 3 月		移動体エネルギーストレージ技術およびその移動体への応用の動向について，体系的に調査・整理することで，移動体エネルギーストレージ技術とその関連技術の将来の発展に寄与しようとするものです。
委員長名（所属）	近藤 圭一郎（千葉大学）		
委員会開催頻度	6 回 / 年		
問合せ・ 公募 受付 先	氏名 （所属）	近藤 圭一郎 （千葉大学）	
	電話	043-290-3334	
	FAX	043-290-3336	
	E-mail アドレス	kondo@mem.iee.or.jp	
応募いただきたい方の 専門分野，経験など	この分野に興味をお持ちで，可能な範囲で調査活動を分担頂ける方ならどなたでも歓迎です。		
応募締切	平成 19 年 11 月 30 日		

委員会名 【技術委員会】	自動車用パワーエレクトロニクスの 現状調査専門委員会 【自動車技術委員会】		委員会での調査・検討項目の概要， 委員長のメッセージ等
設置期間	平成 19 年 4 月～平成 21 年 3 月		産業用を主体に発展してきたパワエレですが，今後は自動車への応用が広がると考えられます。そこで自動車用パワーエレクトロニクスとは一体どんなものであるのか，を調査して行きます。
委員長名（所属）	森本 雅之（東海大学）		
委員会開催頻度	6 回 / 年		
問合せ・ 公募 受付 先	氏名 （所属）	森本 雅之 （東海大学）	
	電話	0463-58-1211 ext4020	
	FAX	0463-59-4014	
	E-mail アドレス	morimoto@ieee.org	
応募いただきたい方の 専門分野，経験など	特に問いません。広い分野の専門，経験のある委員を募集します。		
応募締切	平成 19 年 11 月 30 日		

委員会名 【技術委員会】	道路交通情報インフラのフェイルセーフ設計 とリスク管理に関する調査専門委員会 【ITS 技術委員会】		委員会での調査・検討項目の概要， 委員長のメッセージ等
設置期間	平成 19 年 4 月～平成 21 年 2 月		(1)道路交通情報システムのトラブルや運転ミス等の原因等を調査し，開発・整備・運転・維持・補修等各々の段階における，フェイルセーフとフォールトトレランスに関して調査・研究する。 (2)道路交通情報システムの安全性と信頼性向上の確保を目指し，フェイルセーフとリスク管理の視点から現状の課題を明らかにし，あるべき姿を展望する。 さらに，ITS による新たな機能について，導入する場合に留意すべき事項について調査する。
委員長名（所属）	舟木 剛（京都大学）		
委員会開催頻度	6 回 / 年		
問合せ・ 公募 受付 先	氏名 （所属）	舟木 剛 （京都大学）	
	電話	075-383-2239	
	FAX	075-383-2240	
	E-mail アドレス	funaki@kuee.kyoto-u.jp	
応募いただきたい方の 専門分野，経験など	信頼性工学，応用システム工学，人間工学，オペレーションズリサーチ，安全学，失敗学等に携わり，フェイルセーフ，フォールトトレランス，リスクマネジメントについて興味のある人。		
応募締切	平成 19 年 11 月 30 日		

委員会名 【技術委員会】	産業用リニア駆動システムにおける 要素技術の体系化調査専門委員会 【リニアドライブ技術委員会】		委員会での調査・検討項目の概要， 委員長のメッセージ等
設置期間	平成 19 年 4 月～平成 21 年 3 月		
委員長名（所属）	鳥居 肅（武蔵工業大学）		
委員会開催頻度	6 回 / 年		
問合せ ・ 公募 受付 先	氏名 （所属）	鳥居 肅 （武蔵工業大学）	
	電話	03-5707-2100（追加ダイヤルイン）2764	
	FAX	03-5707-2212	
	E-mail アドレス	torii@ee.musashi-tech.ac.jp	
応募いただきたい方の 専門分野，経験など	リニア駆動システムやその要素技術の開発者， ユーザ。またはこれらに興味を持つ方。		
応募締切	平成 19 年 11 月 30 日		

委員会名 【技術委員会】	医用アクチュエーション技術の 体系化に関する協同研究委員会 【リニアドライブ研究会】		委員会での調査・検討項目の概要， 委員長のメッセージ等
設置期間	平成 19 年 4 月～平成 21 年 3 月		
委員長名（所属）	増澤 徹（茨城大学）		
委員会開催頻度	4 回 / 年		
問合せ ・ 公募 受付 先	氏名 （所属）	増澤 徹 （茨城大学）	
	電話	0294-38-5250	
	FAX	0294-38-5047	
	E-mail アドレス	masuzawa@mx.ibaraki.ac.jp	
応募いただきたい方の 専門分野，経験など	医用アクチュエーション技術に興味のある，工 学または医学分野の方。		
応募締切	平成 19 年 11 月 30 日		
協同研究委員会の場合の委員の負担			1,000 円 / 年

委員会名 【技術委員会】	小形モータの高機能化と制御技術 調査専門委員会 【回転機技術委員会】		委員会での調査・検討項目の概要， 委員長のメッセージ等
設置期間	平成 19 年 4 月～平成 22 年 3 月		
委員長名（所属）	谷本 茂也（日本精工）		
委員会開催頻度	6 回 / 年		
問合せ ・ 公募 受付 先	氏名 （所属）	谷本 茂也 （日本精工）	
	電話	0466-21-3230	
	FAX	0466-21-3078	
	E-mail アドレス	tanimoto-s@nsk.com	
応募いただきたい方の 専門分野，経験など	小形モータの材料技術，制御技術，解析技術， 計測技術，回路技術，生産技術，周辺技術およ び関連技術としての機械系技術。		
応募締切	平成 19 年 11 月 30 日		

委員会名 【技術委員会】	電磁界解析による回転機の 設計・性能評価技術調査専門委員会 【回転機技術委員会】	委員会での調査・検討項目の概要， 委員長のメッセージ等	
設置期間	平成 19 年 4 月～平成 21 年 3 月	現在精力的に進められている高性能 回転機の開発設計および開発プロセス 改善に役立つ電磁界解析技術の確立を 目指し今後解決すべき解析技術の課題 を調査・整理する。また，現在の解析技 術の回転機設計への有効な適用方法に についても調査を行う。	
委員長名（所属）	山田 隆（日本総研ソリューションズ）		
委員会開催頻度	10 回 / 年		
問合せ ・ 公募 受付 先	氏名 （所属）		山田 隆 （日本総研ソリューションズ）
	電話		03-5859-6020
	FAX		03-5859-6035
	E-mail アドレス		yamada.takashi@jri-sol.co.jp
応募いただきたい方の 専門分野，経験など	各種回転機の研究開発・設計および関連の電磁 界解析，材料の開発に従事しているエンジニ ア・研究者。		
応募締切	平成 19 年 11 月 30 日		

委員会名 【技術委員会】	半導体電力変換装置のパッケージング技術 協同研究委員会 【半導体電力変換技術委員会】	委員会での調査・検討項目の概要， 委員長のメッセージ等	
設置期間	平成 19 年 6 月～平成 21 年 5 月	半導体電力変換装置の今後一層の高 電力密度化（小型化・軽量化・高効率化 など）のキーテクノロジーとして注目され るパッケージング技術に関して，以下を 検討する。 (1)研究開発事例の調査・分析 (2)基盤技術，関連技術の抽出 (3)将来の発展の可能性の分析 (4)今後のパッケージング技術の調査研 究のありかた・方法の検討	
委員長名（所属）	清水 敏久（首都大学東京）		
委員会開催頻度	6 回 / 年		
問合せ ・ 公募 受付 先	氏名 （所属）		伊東 淳一 （長岡技術科学大学）
	電話		0258-47-9533
	FAX		
	E-mail アドレス		itoh@vos.nagaokaut.ac.jp
応募いただきたい方の 専門分野，経験など	半導体電力変換装置はもとより，パワーデバイ ス，パッシブコンポーネント，解析技術など， 広範囲の専門分野の技術者・研究者。		
応募締切	平成 19 年 11 月 30 日		
協同研究委員会の場合の委員の負担		2,000 円 / 年	

委員会名 【技術委員会】	省エネ法改正に伴う生産現場における 省エネ技術の適用動向調査専門委員会 【一般産業技術委員会】	委員会での調査・検討項目の概要， 委員長のメッセージ等	
設置期間	平成 19 年 4 月～平成 21 年 3 月	本調査専門委員会では，生産現場での エネルギー消費と省エネの実態を調査・ 分析した上で，さらなる省エネを進める ための技術課題を整理し，そのために今 後，取り組まなければ研究開発テーマな どの動向を明確にすることにより，生産 現場における省エネ技術の発展に寄与 することを目的とする。調査検討項目は 下記のとおり。 1) 生産現場でのエネルギー消費と省エ ネ実態調査・分析 2) 省エネを進めるための技術課題の整 理 3) 今後，取り組まなければならない研 究開発テーマなどの動向	
委員長名（所属）	坂内 正明（日立製作所）		
委員会開催頻度	6 回 / 年		
問合せ ・ 公募 受付 先	氏名 （所属）		坂内 正明 （日立製作所）
	電話		03-4564-5811
	FAX		03-4564-4149
	E-mail アドレス		masaaki.bannai.xu@hitachi.com
応募いただきたい方の 専門分野，経験など	生産現場の生産設備，生産工程の設計・運用管 理の経験者，企業・研究所・大学の技術者およ び研究者で本調査活動を分担して戴ける方。		
応募締切	平成 19 年 11 月 30 日		

委員会名 【技術委員会】		技能の情報化・訓練システム 協同研究委員会 【産業システム情報化技術委員会】	委員会での調査・検討項目の概要， 委員長のメッセージ等
設置期間		平成 19 年 6 月～平成 21 年 5 月	コピキタス・マルチメディア技術を利用して作業技能を記録しようとする研究の端緒がある。一方，課題は，技能情報の伝達・伝承であることがわかった。そこで，企業での技能訓練・伝承のボトルネックは何かを調査研究する。先端技術を学びながら，利用する産業現場の意見を吸い上げることにより，「技能の情報化」技術の方向性を見出してゆきたい。
委員長名（所属）		堀 聡（ものづくり大学）	
委員会開催頻度		4 回 / 年	
問合 ・ 公募 受付 先	氏名 （所属）	堀 聡 （ものづくり大学）	
	電話	048-564-3844	
	FAX	048-564-3508	
	E-mail アドレス	hori@iot.ac.jp	
応募いただきたい方の 専門分野，経験など		企業で技能伝承にかかわっている方。 または関連分野の研究者の方。 動作解析などの手法に興味をお持ちの方。	
応募締切		平成 19 年 11 月 30 日	
協同研究委員会の場合の委員の負担			交通費等実費負担

## 編集後記

皆様，暖冬と言われた今年の冬はいかがお過ごしでしたでしょうか？寒い日もあり，風邪など体調を崩された方も多かったのではないのでしょうか。暖冬の影響が桜も例年より早く開花しました。開花予想をコンピュータでできる時代になりましたが，データの入力ミスにより予想に誤りがあったことは記憶に新しいことかと思えます。技術の進歩により高速で大容量のコンピュータが使われるようになりましたが，改めて操作する人の力が重要であると思知らされました。

さて，今月のニュースレターでは，技術開発レポートのコーナーで(株)安川電機の南 勝信様にロボットの開発状況をご紹介いただきました。安川電機では，産業用ロボットを出荷して 30 年が経過し，累積出荷台数は世界一とのこと。今更言うまでもありませんが，日本が誇る世界的企業の一つです。最近，ロボットというと機械というイメージが強いのか各大学では，電気電子系より機械系学科のほ

うが受験者の人気が高いようです。これもロボットブームの影響でしょうか？

研究グループ紹介では，大分工業高等専門学校の岡 茂八郎先生に研究室をご紹介いただきました。磁気を用いた非破壊検査関係の研究が主になされており，磁性体のき裂を検出する磁気センサなどが開発されています。モータ鉄心などの材料技術が注目されるなか，今後さらに注目される分野と思われます。

また，来る 8 月に開催されます産業応用部門大会の案内を掲載いたしました。各セッションの他，特別講演や見学会，子供理科教室など大変興味深い催しもございます。皆様，奮ってご参加下さいますようお願い致します。

最後になりましたが，お忙しいなか，大変興味深い研究開発内容をご紹介いただきました執筆者の皆様，また各情報コーナーで話題をご提供下さいました皆様に深く御礼申し上げます。

エディタ 大島 政英（諏訪東京理科大学）